

# 令和4年 第6回定例会（12月）

## 一 般 質 問

質問 順位	議席 番号	質 問 者	質問 順位	議席 番号	質 問 者
1	5	並 木 利 彦	5	6	高 橋 政 喜
2	4	南 雲 好 幸	6	1	高 波 大 吾
3	2	渡 辺 千 恵	7	3	和 田 一 郎
4	10	佐 藤 守 正	8	12	南 雲 正

質問事項	質問要旨	答弁要求
1. 2025年の崖について	<p>① 湯沢学園の小学校におけるプログラム授業とは、どのようなことを行っているのか。</p> <p>② 2025年の崖において、この小学校のプログラム授業が大切になってくるのだがどう思われているか。</p> <p>③ 2025年の崖において、湯沢町にどのような状況が予想されどのように対処していかれるか。</p> <p>④ IT専門官は全国的にみても、自治体で雇っているところはないということだったが、湯沢町がパイオニアになってもいいと思うのだが。</p>	<p>教育長</p> <p>町長</p>
2. 湯沢町の観光について	<p>① 令和5年度の湯沢まちづくり機構の予算を、どのように考えておられるのか。</p> <p>② 観光立町・湯沢町に500万人観光を目指す町長であるが、任期の間に達成するのであればそろそろ具体的な計画を予算化し動いていかなければ間に合わないのだが、どうするのか。</p> <p>③ 軽井沢は、街並み景観や観光シーズン期間中の工事規制など、観光に関して徹底している。湯沢町はどう考えておられるのか。</p>	<p>町長</p>

質問事項	質問要旨	答弁要求
<p>1. 湯沢学園学校運営協議会の運営について</p>	<p>前回の定例会で学校運営協議会の議事録がホームページ上に無いことを質問したところ、早速今年度の議事録が掲載された。そこで以下について伺う。</p> <p>① 学校運営協議会の議事録が、ホームページのどこにあるのか大変分りにくい。「湯沢学園学校運営協議会」とヤフーやグーグルで検索すると「学校運営協議会規則」が出る。 まさかこの一番下に議事録への案内があるとは思わず、湯沢町のホームページから探し直し、やっと探し出すことができた。 町のホームページから湯沢学園のホームページに行くのも分りにくい。これでは湯沢町の教育に対するせつかくの良い取り組みを広報できているとは言えない。ホームページの案内手順改善できないか。</p> <p>② 議事録には出席人数の記載がない。委員が何人中、何人出席などの記載は必要と思うが。</p> <p>③ 拡大学校運営協議会が開催されたが、参加した子供達も自分たちの意見に対し学校や町が対応してくれるのか、更には実現できるのか、関心と期待が高まっていることを感じた。今後の対応や実現に向けた検討と行動のプロセスは。</p> <p>④ 学校運営協議会の設置と委員を任命するのは、教育委員会である。この協議会は湯沢学園と湯沢町の発展にとって大変重要であり、又、とても大きな権限を持っている。 この協議会の活動は児童生徒の将来、更には湯沢町の未来を左右すると言っても過言ではない。 そこで、2点伺う。 一つ目、教職員の任用について教育委員会に意見を述べることができる訳だが、児童生徒数が減少し、2クラス編成ができなくなった学年も有り、先生の配属数も減少する事について増員を要求するための議題は上がらなかったか。 二つ目、学校運営協議会の運営発展と議事内容の充実について教育長の見解。 以上2点について伺う。</p>	<p>教育長</p>

<p>2. 教育に関する大綱について</p>	<p>現行の湯沢町教育に関する大綱は令和5年度末をもって終了することになるため、令和5年度は次期（令和6年度以降）の教育に関する大綱を検討する重要な1年である。</p> <p>湯沢町の教育に関する大綱は、平成27年度の最初のものからほぼ変更がなく来てしまっているが、例えば上越市などでは、令和4年度より従来の型式だった内容を大きく変更し、「わくわくを未来へ」という、シンプルかつメッセージ性の強い大綱へと大きく舵を切った。現在の湯沢町の教育に関する大綱は、湯沢学園の職員にも、湯沢学園をコミュニティスクールとして支える保護者・地域にとっても、訴求力が弱く、指針として十分に機能してこなかったのではないかと思う。令和6年度以降の新たな教育に関する大綱を、現在の社会情勢や湯沢町の状況を踏まえてどのようなものにしていくべきか、教育に関する大綱を策定する首長としての見解を伺う。</p>	<p>町長</p>
<p>3. 教育における「持続可能なまちづくり」とそれを成し遂げる「9年間の一貫性を活かした教育」の推進について</p>	<p>11月1日「町村自治研修」があった。「地域再生への道」と題した講演で重要な点は人材創生、この中で誇りある暮らしの主体づくり、そのための教育の重要性を説いていた。</p> <p>人材育成と地域の誇り育成のため、あらためて南雲喜之七翁を9年間教育へ取り入れることを提案する。9月定例会の一般質問で、湯沢学園を「湯沢町の将来を担う人材育成の場」として「創造」していけないか。との質問に対し「創造については、これを目的に課題解決に向け会議を行い、情報公開を含め取り組みたい。」と答弁頂いた。</p> <p>2019年9月定例会では、「成果を出している教育」と「人材育成」の観点から湯沢学園の教育の方向性と具体的取り組みをどのように担保していくか、という質問でも伺っている。</p> <p>今年6月定例会で、「湯沢町を持続可能にするための将来を担う人材育成」についても質問している。少子高齢化・人口減少・経済の低迷、これらから脱却し持続可能な湯沢町にするために伺う。</p> <p>バブル崩壊から約30年、失われた30年とも言われるが、その時生まれた子は30才である。今、10才の子は、10年経てば20才になる。時が経つのは早い。子供の成長は待つはくれない。</p> <p>喜之七翁の9年間教育を提案する本質は、村人のために無税の村を夢見、地域発展のために私財を投げ打って上越線の開通を成し遂げた喜之七翁から学ぶことは、「私利私欲ではなく、人や地域のために、そして初志貫徹する諦めない心の育成」。</p>	<p>町長</p>

また、上越線が湯沢に通っていなかったら今の発展はなかったこと。

これを9年間かけて段階的に深く学ぶことで、この精神が湯沢の将来を担う誇りと地域を思う子供達の育成に繋がり将来、町民として全体で共有できる価値観として根付くはずだからである。

湯沢学園の「人を想い、我を磨く」教育目標実現の具体的取り組みとして、教育長を通じて湯沢学園に働きかけて頂きたいが、見解を伺う。

質問事項	質問要旨	答弁 要求
<p>1. 町の人口増の取り組みについて</p>	<p>地方にとって人口減少は大きな課題で、湯沢町も同様だと思っています。</p> <p>しかし、わが町は「新幹線通勤補助」「移住促進のための住宅取得補助金」「起業支援」など、多くの施策をたて頑張っています。特に、行政だけではやりきれないところを「株式会社きら星」への委託によって、成果が出ていと思います。</p> <p>大きな要素の一つは、移住することへの斡旋だけではなく、移住した後のフォローアップを大切にし、醸成につながる交流会の開催なども、成果の一因ではないかと思っています。</p> <p>先日の委員会での報告によると、湯沢町の移住も少しずつ増え、内でも子育て世代の移住されている方も増えているとのこと。また、新潟県の中でも、湯沢町の人口減少率の低さは1, 2番と聞き、取り組みの成果だと嬉しく思います。</p> <p>しかし、ここで満足することなく、今以上に考えていかないと人口を増やすことは難しい。今後さらに、どのように進めていくお考えがあるのか質問させていただきます。</p> <p>① 今までの取り組みをベースに、今後見直していくところ、新たに考えてる施策などがありましたらお聞かせ下さい。</p> <p>② Iターンについてはそれなりの成果が出ています。しかし、私は地元で育った子供達にも戻ってきて欲しい。と思っています。是非、来年度はここにも、更に力をいれて欲しい。お考えはあるか伺います。</p> <p>③ 町の取り組みとして、支援策などは他の市町村と比べても手厚いと思います。町づくりの柱は「教育」「医療」「経済」。そして、なによりも「人」だと私はかんがえます。</p> <p>今以上に特化した湯沢町だからできる教育、医療などについて考えている事。また、補助制度だけではなく、町づくりとして考えている事、進めていきたい取り組みなどありましたら、お聞かせください。</p>	<p>町長</p>

質問事項	質問要旨	答弁 要求
<p>1. マイナンバーカードへの疑問と問題点について</p>	<p>① 2024 年秋に現行の健康保険証を廃止し、マイナカードに保険証の機能を持たせるとのことだが、その時点でまだカードを取得していない人はどのように処遇するのか。</p> <p>② 湯沢の住民のカード取得率は、県内 30 自治体のうち第5位 (57.22%・10 月末現在) と高い。 役場職員は取得率を上げるために精力的な取り組みをしているが、住民の福祉向上が主要な任務である役場職員の仕事としては、いかがなものかという疑問もある。それにどう応えるか。</p> <p>③ 今後、マイナカードに様々な制度と紐付けをしようとしていると聞くが、マイナカードにどのような機能を持たせようとしているのか。その紐付けが住民福祉とどう結びつくのか。</p>	<p>町長</p>

質問事項	質問要旨	答弁 要求
1. 遠隔地における居宅介護について	<p>平成 27 年 12 月定例会において、「冬期間の遠隔地医療に、どう取り組むか」という質問をいたしました。</p> <p>その時に、群馬県境の利根川で高齢夫婦が遺体で見つかったとう内容のもので、平成 27 年 11 月 29 日付の新聞記事をお話ししたがございます。</p> <p>その原因は家族介護に疲れた家族の話でありましたが、現在湯沢の町にも多くの方が居宅介護をされているものと思います。</p> <p>介護には様々なサービスもあり、利用の仕方もさまざまと思います。</p> <p>平成 27 年 12 月の質問に遠隔地における町長の答弁は「、国道 17 号線は、冬期間でも比較的除雪が行き届いておりますが、三国地区は遠隔地であることや冬の悪天候、地域の高齢化を考えると、不安の面は多々あるかと思っております。」との答弁をされております。</p> <p>平成 27 年は遠隔地における医療の問題でしたが、今回は遠隔地における介護の問題で質問します。現在、浅貝・二居地区の介護の状況はどのようになっているのか。また、高齢者に対する認知症対策はどのようになっているのか伺います。</p>	町長
2. 湯沢病院の現状と課題について	<p>町立湯沢病院は、近年赤字経営が続いており、町から補填がされております。</p> <p>「人口減少」と「高齢化」が経営を難しくしている原因の一つと考えますが、他にも何か要因があるのではないかと調査してみないとわからないと思います。そこで、町長の見解を伺います。</p>	町長
3. スケートボード施設の復帰について	<p>平成 29 年 3 月議会で、スケートボードの練習場所について質問しております。</p> <p>「2020 年東京オリンピックに追加競技として、スケートボードが入り、湯沢町でもスケートボードを練習する若者が見られます。その場所が、立柄橋や道路を使って練習されている。しかし、危険が伴い他の人にも迷惑をかけるので練習場所を用意できない</p>	町長



	<p>か。」との質問に対し、町長答弁は「立柄橋や道路での練習する姿が見られ、近隣住民や警察の注意を受けると聞いている。」中間を抜きますが、「将来的に常設施設を整備検討していきたい。」と話されています。</p> <p>ところが現在は、ノリタの跡地に放置されたままの状態です。これから降雪もあり、劣化するのには目に見えていますが、今後どのように復帰させるのか伺います。</p>	
<p>4. 十日町市との境界に関する裁判について</p>	<p>十日町市との境界について、平成 28 年・29 年・30 年と質問をしています。平成 26 年 10 月 3 日妻有新聞では、「再浮上した境界線問題」というものでした。平成 28 年 12 月から平成 30 年にかけて、清津峡の現状から始まり長年苦勞してきた職員の問題や進まぬ調停の問題、最終には裁判への質問もしてきました。結果は裁判となり、令和 2 年 4 月に開始され約 2 ケ年が過ぎました。現在の状況と今後の方針を伺います。</p>	<p>町 長</p>
<p>5. 湯沢町歴史等に関するマイクロフィルムデジタル化について</p>	<p>平成 29 年 3 月議会で、「湯沢町歴史民俗資料館には、紙台帳並びにマイクロフィルムによる町の歴史が保存されています。保管状態が完璧でないため、劣化が懸念されます。</p> <p>マイクロフィルムは 408 本あり、マイクロフィルムリーダープリンターの自動運転が不良のため、使用されない状態となっています。このままでは、貴重な資料が宝の持ち腐れとなりますのでマイクロフィルムの内容をデジタルデータに変換し、情報の活用と保全にと思います。」の質問に、町長答弁は「町内の貴重な古文書や資料をマイクロフィルムにおさめてあり、温度・湿度など適切な保管環境下であれば、100 年以上は劣化もなく、長期保存に優れた媒体とされている。しかし、資料を閲覧する場合、ロールフィルムであることから、検索に苦勞を要します。検索を繰り返すことによって劣化も考えられる。</p> <p>マイクロフィルムを導入した当時は、閲覧よりも保存することに主眼を置いていたと思われま。現在も閲覧は年に数回しかないことから、どれだけ情報の活用ができるか見極めるとともに、リスク管理という意味で、デジタルデータによるバックアップを考慮した中で、デジタルデータ化を検討したいと思います。」と言われていますが、現在の見解を伺います。</p>	<p>町 長</p>

<p>6. 大源太砂防堰堤工事の終了に伴う排水トンネルの活用について</p>	<p>平成 29 年 12 月から「大源太砂防堰堤排水トンネルの利活用について」質問してまいりましたが、この秋に堰堤工事も終わり、あとは残務工事となりました。</p> <p>先日、現場を見てまいりました。排水口は手すりがつけられ、取り入れ口は盛土され、建屋の出来上がりの状態も確認してまいりました。</p> <p>外観を見ただけですので、内の様子はわからなかったのですが、観光等に役立てることはできないか、町として今後はどのように考えているのか伺います。</p>	<p>町 長</p>
--	---	------------

質問事項	質問要旨	答弁 要求
<p>1. 文化交流活動拠点の整備について</p>	<p>文化活動は地方自治体においても、交流人口・関係人口の拡大に優位に働く施策であると考えます。国は 2016 年策定の「日本の明日を支える観光ビジョン」や 2020 年の「観光ビジョン実現プログラム 2020」でも地域の文化資源の発掘や活用、磨き上げ、基盤整備の重要性を訴えており、県においても 2017 年の「新潟県文化振興ビジョン」があり、今年4月に観光文化スポーツ部として組織の再編が行われるなど、この分野を一体となって取り組みを進めているところで、今後も観光と文化(とスポーツ)は不可分の領域になってくると考えられます。</p> <p>こういった流れを踏まえると、観光立町が町是である我が町においては、文化は言わば活動の両輪に位置するといっても過言ではない。</p> <p>一方で普段の暮らしを思うと、まだまだ観光に施策が偏重しており、文化については多分に発展の余地があると考えます。</p> <p>町内において主要な産業である合宿誘致であるが、スポーツ系のグループのみならず、音楽系サークルの合宿が行われるなど盛んに文化系の団体の活動があるが、例えばこれらの団体の合宿成果の仕上げとなる大会や発表会を行えるような施設を整備することにより、そこでステージに立つことがキャリアの上での一つのステータスシンボルとなるし、町に興味を持ってもらい、愛着心を育むという面でも大いに意味がある。</p> <p>学生との定期的な交流の機会があることは最初に述べたように、文化活動による関係人口や交流人口の増大につながり、これは将来の移住・定住予備軍を大きく増やすことができる可能性を秘めていることを強く認識していただきたい。併せて、町民の文化活動の機会の確保にもつながり、生涯学習や社会教育活動を重視する自治体であることを内外にアピールすることもできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音響設備の整ったコンサートホールや野外の舞台などを整備する計画や構想などはあるか。</li> <li>・どこにどんな規模のものが必要だと考えるか。</li> </ul> <p>現状の施設で、上記のような需要を十分に満たせるとお考えか伺う。</p>	<p>町長</p>

<p>2. インバウンドやスノーエントリー層のために越後湯沢駅を中心とした機能の強化を</p>	<p>① 先般、湯沢町観光振興計画2022-2031が出来上がったが、その中で湯沢町スノーリゾート形成計画の概要について述べられており、これは観光庁の選定する「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」の対象の一つということだが、ここに「利用者本位であることを重視し、越後湯沢駅を拠点とするエリアとしての一体感をもって取組をおこなう」との記述がある。</p> <p>私はこれに大いに共感している。そこで伺いたいのは、まずこの記述はどのような取組を今後、行うことを念頭に置いての記述であるのか説明を願う。</p> <p>② 現在の越後湯沢駅の機能を振り返ってみると、事業者の方々には申し訳ないが、シャトルバスの発着所は東西に分散しており、更衣室は無く、入浴施設も当町を訪れるスキー人口に対してキャパシティが十分だとは思えない。</p> <p>スノーエントリー層に世界一やさしいスノーリゾートを目指すのであれば、交通結節点である駅を中心とした機能の強化は不可欠だ。</p> <p>利用者本位というのは具体的に申し上げれば、大きなリュックやキャリーバッグを引き、足元は普通の靴で、上着や帽子や手袋も備えていない、完全な手ぶらのお客様を想定していただきたい。例えば、ガーラ湯沢は駅の改札を出ると全てワンストップで、レンタルコーナーやチケットカウンター・コインロッカー・更衣室・シャワールームといった雪遊びに必要な身支度を整える施設が完備されている。越後中里駅も日帰りスキーセンターが駅に直結しているし、屋外に出ることなくスキーの支度を整えてゲレンデに出発することができるというのが大事だということは理解していただけたらと思う。</p> <p>大きな駅舎や東口広場という空間的余裕を抱えている越後湯沢駅を、これらのように機能を強化することで、新幹線駅である強みを生かして、全ての支度を整えた上でそれぞれのスキー場に向かう交通手段に乗り換えることが可能となれば、計画のターゲット層であるインバウンドやスノーエントリー層からは大いに喜ばれることと思うし、各スキー場もマイカー以外の利用客が増えることで、利用者の増大が見込めることと思う。</p> <p>公共交通機関の利用人数が増えれば地域交通にとってもプラスであるし、一体感のあるブランディングを行っていくのであればぜひ取り組んでいただきたいのだが、町長の所見を伺う。</p>	<p>町 長</p>
---	---	------------

<p>3. 通りや場所に名前をつけることについて</p>	<p>① 国土交通省の社会実験の一つに、「通り名で道案内」というものがある。</p> <p>通常の道案内だと町名や番地で示すため、土地勘の無い来訪者にとってはわかりにくいところがあるが、これは土地に不慣れな方、具体的には観光客やインバウンドに対して通りの名前と距離を表す番号を記載した地点標で目的地への案内をしようという試みで、わかりやすいのは国道 17 号線に立っているキロポストのようなものを町中にも置こうという試みだ。取り組みとしてはやや古く、2006 年(平成 18 年)から2年間、全国で行われたとホームページに記載がある。</p> <p>アイデアそのものは今でも通用すると考えており、湯沢の西の温泉街や東の商店街、駅通りなどの回遊性を高めるための施策として取り入れても良いと考える。</p> <p>通りに呼び名をつける過程で地域のコミュニティの醸成にもつながり、イベントなどでも活用が可能と考えるが、いかがか。</p> <p>② 名前のないスポットは、なかなか認知度が高まらない。代表的なのは、西口の足湯であろう。名前があることは思い出を共有しやすくなり、町の歴史において重要な意味を持つ。</p> <p>道興(どうこう)という室町時代の僧侶が北陸を通過して越後に入り、三国峠を越えて関東を旅した時の記録である『廻国雑記』(かいこくざっき)という文献がある。</p> <p>ここで、室町時代の湯沢町に比定できる地名として「くつぬぎのさと」という記述が出てくる。「これより、くつぬぎといへる里を過ぎ待るとて、” 我も亦 あしをやすめて 立ちぞよる 水かふ 駒の沓ぬぎの里”」これは、今の熊野の辺りのことだという先行文献があった。つまり「ツナギ」の古い名前だと想像できる。</p> <p>「ツナギ」は綱の木で馬を停めるための木ということだが、それも含めて旅人が足を休める機能が古昔から、ここにあったということに他ならない。</p> <p>現代の旅人も湯沢を訪れて靴を脱ぎ、足を休めているというところに大きな歴史のロマンのようなものを私は感じる。ぜひ廻国雑記の記述に由来する名前を、西口の足湯に与えてほしいと考えるが、どうか。</p>	<p>町 長</p>
<p>4. 地域再生計画に具体性を持たせることについて</p>	<p>企業版ふるさと納税(地方創生応援税制)について問う。企業版ふるさと納税は返礼品ではなく、地域再生計画についての寄付という扱いと理解しているが、湯沢町の地域再生計画「湯沢町</p>	<p>町 長</p>

	<p>まち・ひと・仕事創生推進計画」には、湯沢の重要なブランドである「雪国」も「温泉」も「山」も「スキー」も「フジロック」も出ていない。地域再生計画に共感を呼べなければ、企業版ふるさと納税も実績には結び付きにくい。地域再生計画のより具体的な内容を提示することについて町長はどうお考えか。</p>	
--	---	--

質問事項	質問要旨	答弁 要求
1. 東口の活性化について	越後湯沢駅東口の活性化対策について。現在、各事業者等が定期的に集まって意見交換等を行っているが、活性化に向けた町の支援策等の現状、及び今後の対策等について伺います。	町 長
2. 孤独死について	高齢化や核家族化等により独居世帯が一定数存在するなかで、全国各地で孤独死が増加している。孤独死を防ぐための町の対策・支援事業の取り組み状況について伺います。	町 長

質問事項	質問要旨	答弁 要求
<p>1. 令和5年4月に実施予定の役場機構改革において、部長制度を堅持する意義について問う</p>	<p>平成 26 年 12 月 18 日施行の湯沢町部設置条例により、平成 27 年4月から湯沢町役場に部長制度が導入され、8年が経過する。議会においても、職員数が 120 人前後の湯沢町役場に部長制度が本当に必要なのかという議論が再三なされ、また組織内においても疑問視する声も聞こえてくる。</p> <p>11 月 14 日の議会全員協議会に、令和5年4月実施予定の役場機構改革案が示された。行政改革検討委員会では、近年増加が著しい行政需要への対応及び職員の年齢や能力に応じた適正な昇格の観点から、現状の部長制度を維持したまま、社会情勢等に合わせて業務を効率的に推進するための体制を検討したということであったが、部長制度の問題点等の検討内容は示されていない。</p> <p>主な機構改革の内容は、地方創生・産業観光の振興、企業誘致等をより高度に推進するために担当部署の連携を強化する必要があることから、企画産業観光部を設けて対応することということだが、昨年、華々しく立ち上げたDMO観光まちづくり機構との関係、住み分け、町長の就任時からの公約「開花八策」に示されている行政改革のチャレンジする行政「企画戦略推進室」の設置、行政運営の調整部門はどうするのか。また、機構改革の目的に職員の年齢、能力に応じた適正な昇格という観点が示されているが、機構改革の優先順位が違うのではないかと考えると、提案された機構改革が役場組織の活性化や職員の能力発揮の起爆剤につながることは到底思えないが、町長の機構改革にかける思いを問う。</p>	<p>町 長</p>
<p>2. 人口減少対策について、更なる検討を</p>	<p>全国の人口減少問題を研究している機関が、最新の国勢調査の結果をもとに人口の将来予想を分析している。</p> <p>現状のまま対策を打たなければ、県内の人口が 2050 年には 36%減、小学生の人口も半減すると予測している。</p> <p>現在の移住定住政策のだけに頼ることなく、一過性の移住定住合戦に惑わされることなく将来計画を立てて取り組むべきと考えるが、町長の人口減少対策の将来構想について問う。</p>	<p>町 長</p>